

神奈川県立厚木東高等学校第75回卒業証書授与式 校長式辞

3月の声を聴き、流れる風もどこか温かさを感じるようになってまいりました。春の訪れを待ちわびながら、寒風を貫いて咲き出していた梅の木々も今や満開の、晴れやかな日です。

本日、ここに、神奈川県立厚木東高等学校、第75回卒業証書授与式にあたり、本校PTA会長志村様、常盤会会長林田様におかれましては、ご多用のところご臨席を賜りました。ありがとうございます。

また、今日の日を心待ちにしていたでありましょう、保護者の皆様方。本日はおめでとうございます。3年間、本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございました。熱く御礼申し上げます。

ただいま234名に卒業証書を授与いたしました。

75期生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

昨日皆さんの手に渡った『東高新聞（卒業おめでとう号）』にも書きましたが、皆さんの高校生活3年間は、まさにコロナ禍の中にありました。そして、それに立ち向かうことでたくましく成長し、今日それぞれの未来へと歩みだす日を迎えました。

75期生は私にとっても、忘れることのできない大切な代です。

3年前、それまでの先生方の検討の結果を受けて、「学校生活をコツコツ頑張る生徒」と「受験の最後まで頑張る生徒」の両方を大切にしたいと、方針を定めました。

当時副校長であった私は学校説明資料を持ち、村越前校長先生とともに近隣の中学校などを回りました。

そして、受検してくれた皆さんを「さあ、受け入れよう!」と、新しい学年の先生方と準備していたところに「コロナ・休校」の展開。重ねて私自身も転勤となってしまったので、皆さんに会えないままとなりました。

1年生の時には「あるべき行事」は実施されず、部活動等も大会が開催されない等、「想像していた高校生活」とは程遠い日々不安を覚えたこと

でしょう。しかしながら皆さんは、先生方と力を合わせて、この「ピンチ」の中から少しずつ前を向き、歩みを進め、力をつけていきました。

2年後の昨年4月。東高に戻ってきた私は、皆さんの逞しく成長した姿に、感動と感謝を強く感じました。

最後の1年は、それまでのエネルギーを一気に爆発させたような時間となりました。日頃の学校生活をしっかり積み重ねた人、部活動や体育祭・手児奈祭に力を注いだ人、進路や自分の未来に向けて挑んだ人、今、この瞬間も「最後までやり抜こう」と頑張っている人もいます。

また、時に悩んだりした時も、職員室や保健室…学校を頼りにしてくれて、一緒に解決に向けて考えることが出来ました。

皆さんは、私たちは望んだ以上に「厚木東高校生の姿」を確かに示してくれました。

学校とともにいてくれたこと。

学校を使ってくれたこと。

本当にありがとう。

それぞれの困難に向き合い、行動した「日々」の一つ一つこそ、皆さんの財産です。卒業証書は皆さんの「3年間の頑張り」の証です。

そんな皆さんに、私から饞の言葉を送ります。

入学の時に「学校からの推薦図書」の案内が配られたことを覚えているでしょうか。先日の合格発表の時にも新入生向けに配られていたので、私も改めて見直したのですが、その中の一冊に、宮本輝さんの『青が散る』という小説が載っていました。この作品、私が皆さんくらいの時にテレビドラマになったことから、私たちの世代では少し有名で、私も読んだことがあります。

主人公はごく普通の大学生。友人や憧れの異性との人間関係など、ごく普通の生活の中から悩んだり考えたりして、少しずつ大人になっていくお話し…と、そんなあらすじなのですが、この中で当時の私に刺さった一説があります。

主人公が学業を怠けて、授業の単位を落としそうになります。そこで、彼は年老いた教授に許しを請いに行くと、ペナルティを課せられる。それ

を果たした後、その教授は主人公を諭すように、こう言うのです。

「若さとは 自由と潔癖 である」

若いうちは自由であるべきである。

でも、それと同じくらい、潔さがなければならぬ…と。

どこか自分に負けて「ちょっとごまかして」生きてしまうことがあった当時の私。だからこそ「自由であること」と同じくらい「潔癖であること」つまり（当時の私の解釈では…）「正々堂々とする」「自分にうそをついてはいけない」「成すべきことをすべき」としたこのセリフは、心に刺さり、そののちの生き方の指針になったのでした。

あれから40年近くたった今。

本校を巣立っていく皆さんにも、同じ言葉を送りたいと思います。

「自由であれ。そして潔癖であれ！」

皆さんは、無限の可能性を持っています。正直「その気になって、そのために歩めば、きっとなんだってできる」これは本当です。

ただし、「あきらめや限界」を自分から作らなければ…です。

だから「自由な発想」と「自分に、そして自分の夢に正直でいること」を今日から続けてください。そして、何年か先。今とは違った景色を見て、そこで思いっきり、自分を発揮してきてください。

私たち厚木東高校は、皆さん一人一人の「未来」を信じています。

最後に…

「卒業おめでとう」

「さあ、行ってらっしゃい！」



令和5年3月4日
神奈川県立厚木東高等学校
第36代校長
梅澤 広昭

※ 今年は保護者もご来場いただくことができました。送辞も答辞も心のこもった言葉が紡がれており、とても感動。本当に暖かい雰囲気で行うことができました。ありがとうございました。